

日本文理大経営経済学部経営経済学科  
地域マネジメントコース教授

山城興介さん(45)



通す道しるべと言えぬ。

交通ネットワークの伸  
長、大型店の新規立地、中  
心市街地の再開発……。街の  
姿が変われば、人の流れは  
おのずと変わる。

都市の商業・交通機能が  
変化すると、訪れる人や集  
客数はどれくらい増減し、  
どんな波及効果が見込まれ  
るのか。消費者の行動から、  
まちづくり政策のありよう  
を検証し、活性化の方策を  
探っている。

その手法は、買い物、レ  
ジャー、食事といった消費  
者の回遊パターンを街頭で  
調べ、独自に考案した予測  
式で「人の動き」と「お金  
の流れ」を算出。直接的な  
支出増大効果導き出す。  
経済予測は地域の将来を見

九州新幹線の全線開業  
(2011年)や15年にオ  
ープンしたJRおおいたシ  
ティ(大分市栗町)など、  
地域経済の中核をなす商業  
施設の進出・撤退。九州各  
都市の節目を見つめ、数々  
の集客予測や影響分析を  
手がけてきた。

「開発プロジェクト前後  
の消費者の動きを数値化す  
ること、地域政策の妥当  
性を正しく評価できる。そ  
の後のまちづくりに必要な  
施策も見えてくる」

一方で、インターネット  
通販が急速に普及し、消費  
者の購買環境は大きく様  
変わりした。「数年前まで中  
心市街地のライバルは郊外  
の大型ショッピングセンタ  
ーだったが、今や『リアル  
店舗対ネットショップ』の  
構図に移行しつつある」

新型コロナウイルス禍を  
経て、人の流れはどう変わ  
ったか。地方経済には活性

## 消費者の行動を数値化

消費者の行動分析を通して、まちづくり政策のありようを検証する日本文理大の山城興介教授。大分市一木、撮影・仲道裕司



化策として何が求められる  
のか。さまざまなビッグデ  
ータを活用し、アフターコ  
ロナの消費者行動を解き明  
かそうとしている。

福岡大時代、ゼミ生とし  
て買い物客の回遊行動を調  
べ、人の動きに興味を持つ  
た。同大学院では福岡市中  
心部の「100円バス」を  
研究し、その経済効果は年

間100億円超に上った。

「人の流れで経済は動く」  
と実感。消費者の行動から  
都市・地域政策にアプロ  
ーチする醍醐味に触れ、研究  
者の道を選んだ。

ここ数年、注目している  
のが地方の百貨店業界。「な  
ぜ若者はデパートに行かな  
いのか」。昨年3月には日  
本文理大の学生アンケート  
を基に考察した論文を発表

## まちづくり政策検証

した。若年層の店舗選択や  
購買行動の傾向を分析し、  
まちづくりの観点から再生  
のヒントを研究する。

「地方百貨店は『街の  
顔』だが、通い慣れた年配  
の人とは違い、若者にはな  
じみが薄い。もつと足を運  
んでもらうには心に響くワ  
クワク感が必要。その世代  
の回遊が増えればさらに活  
気が生まれる」

ポイントは「今ある物を  
いかに利活用し、魅力的な  
見せ方でアピールできる  
か」とみる。「例えば、古  
き良き『昭和感』を演出す  
るとか、リアルとバーチャ  
ルを融合した新たな手法も  
やり方の一つ。中心市街地  
全体が元気になるよう、デ  
ータを基に地域と共に考え  
ていきたい」と語った。

(百崎浩嗣)  
＝随時掲載＝

やまぐちこうすけ 1976  
年、福岡県香春市生まれ。福岡大  
大学院経営経済学研究所(博士課程)  
満期退学。経済学博士。同大都市  
空間開発行動研究所ポスドクタ  
ーを経て、2017年4月に日本  
文理大経営経済学部の准教授に就  
いた。昨年4月から現職。専門は  
消費者の行動分析による地域政策  
評価。大分市在住。